



長崎大学 頭脳交流ミーティング

長崎大学 研究推進戦略本部
主任URA
王 鴻香



長崎大学は多様な領域の研究者が集う総合大学



9学部

多文化社会学部 教育学部 経済学部
環境学部 水産学部
医学部 歯学部 薬学部 工学部

6研究科

教育学研究科 経済学研究科 工学研究科
水産・環境科学総合研究科 医歯薬学総合研究科
熱帯医学・グローバルヘルス研究科

附属研究所 海外教育研究拠点

熱帯医学研究所 原爆後障害医療研究所
熱帯医学研究所ケニアプロジェクト拠点
熱帯医学研究所ベトナム拠点

長崎大学 大学院
水産・環境科学
総合研究科

水産科学と
環境科学の
融合

多文化
社会学部

人文社会系の
分野横断的
再編

学内の分野間の連携状況

部局間共著論文数マトリクス

	医学系	歯学系	薬学系	保健学系	病院	熱研	原研	工学	水産	環境	経済	教育
医学系	359	33	36	169	745	34	145	4	1	2	0	0
歯学系	33	366	6	5	140	1	3	3	0	0	0	0
薬学系	36	6	435	3	57	4	11	2	0	2	0	0
保健学系	169	5	3	290	130	13	25	0	0	0	0	0
病院	745	140	57	130	1,037	25	112	3	0	1	0	0
熱研	34	1	4	13	25	428	4	0	0	0	0	0
原研	145	3	11	25	112	4	377	0	0	0	0	0
工学	4	3	2	0	3	0	0	332	4	0	0	0
水産	1	0	0	0	0	0	0	4	298	4	0	0
環境	2	0	2	0	1	0	0	0	4	70	0	0
経済	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0
教育	6	0	0	1	0	6	1	0	0	0	0	36
合計	1,175	191	121	346	1,213	67	301	16	299	70	4	36

2011～2015 Web of Science

異分野の研究者の交流機会が減多にない

研究者の声

- 他の教員が何を研究しているか、知る機会が皆無。
- 突然「共同研究を提案しろ」というのは困難。
- 新学術領域やCREST・さきがけは、自分の出せる領域がどんどん少なくなる。

水産・環境科学総合研究科として融合を標榜しているが…

一歩踏み出す難しさ

研究分野の細分化、閉鎖化

分野間の相互理解の難しさ

分野が非常に近いと見えても、
流儀や行動パターン、しきたりや言葉さえも異なることが多い。

例

1. cm^{-1} の読み方：有機化学や有機金属化学ではごく最近までカイザー、他の化学分野ではwavenumber
2. 論文の数え方：物理や化学では「報」、機械や電気では「本」
3. 研究単位の呼び方：医学では「教室」、理工学関係では「研究室」
4. 討論会の服装：工学部の人が入ると背広、理学部関係だけだと普段着
5. duplicate publicationを反倫理とする捉え方の温度差

頭脳交流ミーティングでの呼び掛け



閉ざされた環境に置かれた研究者へ：
交流の機会を創ろう。 研究交流の気運を高めよう。

長崎大学頭脳交流ミーティング

有志の研究者が一堂に集まり、自らの研究発表を行うとともに異分野の研究者とディスカッションすることで知見を深め、新しいアイデアの発掘や将来の共同研究の芽を期待する。

狙い

- 覗き見
- 話をして相互理解、刺激し合う
- 研究の下調べを、壁なく共同してできる気運を高める
- 実際に研究で助け合う
- 新しい研究の芽が出る

一つの考えに凝り固まらないように導きたい！

そのため、「研究者の教養」としての異分野交流も重要。

波及効果: 柔軟な思考を養う、多分野の視点から研究を磨く

年に1回、4年連続開催しました！

H24
年度

第1回 長崎大学頭脳交流ミーティング
～秋深き陣は何をする人へ～

日々研究に打ち込まれている研究者のみならず、
少しだけ研究室から離れて、異分野の研究者と交流してみませんか？

【日時】平成25年11月15日(金) 正午～16日(土) 夕方
【場所】伊王島・海の見えるホテル(大学一現地側：送迎バス有り)
【参加費】三千元(宿泊、食事代込)
【参加者】学長、研究推進部長、副学長、各部署からコンメンター、
研究国際課、広報戦略本部、メインは「若々しい研究者」
【内容】自己紹介、研究紹介、異分野融合研究企画コンペ、
ミニレクチャー(研究費獲得戦略、英語プレゼン/ノウハウ)など

応募対象は「若々しい研究者」です。年齢制限は設けておりませんが50名まで
とさせていただきます。応募希望数の場合は、部門間のバランズと先着順を
もって参加者を決定します。ご了承下さい。

また、育児中の研究者にも積極的に参加いただくため、託児室を設置します。
ご家族様での参加にも対応します。
同僚者様の旅費は個人負担となります(一万三千元/大人1名)

お申し込みはこちらのQRコードから →

担当：研究推進戦略室 山口URA (email:ura@ml.nagasaki-u.ac.jp, exc:文数2008)

第1回 長崎大学頭脳交流ミーティング

H25
年度

第2回長崎大学頭脳交流ミーティング

日時：平成26年9月12日(金)、13日(土)
場所：ホテル矢太楼(長崎市風頭町)
主催：長崎大学研究推進戦略本部



H26
年度

第3回 長崎大学 異分野 頭脳交流ミーティング
2016.2.6 (土) 10:00～20:00
場所：名水の宿「いいいの村長崎」
(諫早市高梁町南住寺1180番地)
対象者：大学の教職員

主催 研究推進戦略本部
立ち表に 分野の垣根 越え集い
新たな研究 芽生え育てる

学内異分野交流の意義と開催趣旨
定常研究經費の持続的削減が厳しさを増す中
で、大学の研究者は、光る研究内容でプレゼンスを
示す必要性がますます高まっています。その基礎の
一つは、学内で分野・部門の壁を越えて知り合い、
刺激し合い、協働の持ち手カードを増やすことです。
例えば、基礎研究を推進のスタンスで進める教職も、
周囲を知り、知ってもらうことで、新しい展開の機会
を得られるはずです。一人では研究費とプロジェクト
参加機会が少ない若手も、学際的年齢層断層の協
働の中で研究を遂げ、潜在力を発揮できるはず
です。このミーティングは、日常の居場所である大学を
離れた学内の研究者が一堂に会し、清々しい気持ち
で交流し、楽しく議論するための企画です。

プログラム
(参加者には後日詳細プログラムを配布します)
10:00～10:05 開会の言葉
10:05～17:00 交流会(途中、昼食有)
(プレゼンテーション、グループディスカッション、
自由議論などを楽しめます)
17:00～18:00 温泉、周辺散策など
18:00～20:00 夕食会

参加費
本学教職員：1,000円(当日徴収)
(昼食、夕食費、入浴代込み)
ご家族：利用料は自己負担

無料託児室設置
お子様連れの方も歓迎！
送迎バス無料

事前申込

<http://goo.gl/N9pzKf>

お問合せ 研究推進戦略本部 TEL: 095-819-2208 e-mail: ura@ml.nagasaki-u.ac.jp

あなたのA&Pを待っています！
この場でつながり、人と研究。この場で生まれる、新しい研究の芽。

A&Pとは、appeal and presentationの略です

- 参加者全員に、1人3分以内で、内容自由のプレゼンテーションをお願いします。
- プレゼン資料は、pptファイル4スライド以内厳守、様式自由。
- プレゼン資料1枚目には、お名前、ご所属、研究分野、趣味をご記入ください。他にも特技やアポイントメントしたいことを自由に記入していただき、様式自由。
- 以下の内容を自由様式で御記入ください。全員の内容でも構いません。
①私の研究内容のセールスポイント(できればCartoonで)
②こんな測定が得意、こんなことなら私に頼んで、他人の人が持っていないはずの測定法と技を教えられます。
③学内に、こんなことを助けてくれる人がほしい
こんな文献や資料、何処ませんか？
この理論を解説してほしい人がある人がある
この計算をアドバイスしてくれる人がほしい
この測定をさせてほしい、一回だけ分析をさせてほしい
こんなことを一緒にしてくれる人は？
④この指とこれ＝梦想的に共同研究の呼びかけ
こんな共同研究を提案したい
⑤自分でアポイントできること、一緒に悩みの解決を話したいこと
例えば・・・研究費獲得事例、研究時間確保のやり方、研究費不足時期の切り切り方、国際会議出席の外部からの取組のノウハウ？ 科研費(新学術)研究班へのアピールに必要なことは？ 院生・卒研生を協力者とする研究の推進のノウハウ、アイデアを聞き出すには？ ...などなど

※異分野の方にも同時に依るよう、分りやすくプレゼンしましょう！
専門用語は極力少くしましょう！
Cartoonを効果的に使ってください！

※プレゼン資料(pptファイル)提出期限：
2月3日(水)までに、ura@ml.nagasaki-u.ac.jpまでメールして下さい。
当日、印刷体も配布します。

長崎大学 第4回頭脳交流ミーティング
立ち表に 分野の垣根 越え集い
新たな研究 芽生え育てる

2017.2.12 (日)
10:00～20:00
場所：にっしょうかん新館 梅松館
(長崎市南平2丁目14-1)
対象者：大学の教職員、特別研究員

参加費 1,000円
当日徴収、昼食、夕食費、入浴代込み
(ご家族の参加料は自己負担)

送迎バス無料
無料託児室設置
お子様連れの方も歓迎！

- ショートプレゼンテーション
10:00～11:00 いざいざ異分野の、いろんな人に分りやすい研究を紹介しましょう。
- ポスター交流会
11:00～12:00, 13:00～14:00 あなたの研究成果を、あなたが興味のある分野に出会え
- 「若手教員による将来構想WG」の提案
14:00～14:40 長崎大学の未来の研究環境について一緒に考えよう。
- 本学異分野連携研究事例紹介
15:00～15:30 学内の異分野連携した研究事例を紹介します。
- 学長・理事との交流時間
15:30～17:00 本学の異分野融合研究の動向について、学長・理事と意見交換をしましょう。
- 温泉時間 (17:00～18:00) ●夕食会 (18:00～20:00)
分野・部門の壁を越えて知り合い、親睦を深めよう。

お問合せ 後日
詳細プログラムを配布します

事前申込 2017年2月6日(月)
TEL: 095-819-2208
e-mail: ura@ml.nagasaki-u.ac.jp
<http://goo.gl/6t2477>

H27
年度

長崎大学頭脳交流ミーティングの特徴①



日常の居場所である大学
(研究室)から離れた場所で開催

週末1泊2日or週末の1日、30~40人参加

バスで会場へ向かう参加者



泊まり込みの集会。
時間を気にせず交流を楽しむ



ベビーシッターを毎回配置!

女性研究者・家族連れも積極的に参加



温泉あり
入浴は色々話をするチャンス



執行部との交流

学長、理事が
毎回ほぼフルタイム参加
教職員と膝を交えて話し合う



参加者アンケート回答抜粋

- 学長及び理事に、好き勝手に意見を言える場だったのがよかった。
- 学長の思いを知ることができた。
- 国立大学の目指す研究や教育の方針が少し見えた。
- バスの中で学長の隣に座れてたくさんの話げできた。
- ざっくばらんに学長・理事に異分野交流を進めるための具体的なアイデアをぶつかる時間を増やしてほしい。

長崎大学頭脳交流ミーティングの特徴③

あなたのA&Pを待っています！

この場でつながる、人と研究。この場で生まれる、新しい研究の芽。

A&Pとは、appeal and presentationの略です

1. 参加者全員に、1人3分以内で、内容自由のプレゼンテーションをお願いします。
2. プレゼン資料は、pptファイル4スライド以内厳守。様式自由。
3. プレゼン資料1枚目には、お名前、ご所属、研究分野、趣味をご記入ください。他にも特技やアピールしたいことをご自由に記入してください。様式自由。
4. 以下の内容を自由様式で御記入ください。全く別の内容でも構いません。
 - ①私の研究内容のセールスポイント（できればCartoonで）
 - ②こんな測定が得意、こんなことなら私に訊いて、他の人が持っていないはずの測定法と技を教えられます。
 - ③学内に、こんなことを助けてくれる人がほしい
 - こんな文献や資料、知りませんか？
 - この理論を解きほぐしてくれる人が欲しい
 - この計算をアドバイスしてくれる人がほしい
 - この測定をさせてほしい、一回試に分析をさせてほしい
 - こんなことを一緒にしてくれる人は？
 - ④この指とまれ = 仮想的共同研究の呼びかけ
 - こんな共同研究を提案したい
 - こんな未踏分野に長大から誰かと一緒に挑戦したい。
 - ⑤自分でアピールできること、一緒に悩みの解決を話したいこと
 - 例えば…、研究費獲得例、研究時間遣り繰り、研究費不足時期の乗り切り方、国際出張旅費の外部からの取得のコツは？ 科研費「新学術」研究班へのデビューに必要なことは？ 院生・卒研究生を協力者とする研究の推進のコツ、いいポスドクを雇うには？ …などなど

※異分野の方にも瞬時に伝わるように、分かりやすくプレゼンしましょう！
専門用語は極力少なくしましょう！
Cartoonを効果的に使ってみましょう！

※プレゼン資料（pptファイル）提出期限：
2月3日（水）までに、ura@ml.nagasaki-u.ac.jpまでメールして下さい。
当日、印刷体も配布します。

多様な参加者

ほぼすべての部局から参加者。

第1回：42人

第2～4回：30人程度（スタッフを除く）

URAの役割

多様な参加者のための周到な準備

参加者アンケート回答抜粋

- 長崎大学の若手の人とその研究を知ることができたのが大きな収穫
- 研究熱心な方が多く、自分自身のモチベーションアップにつながった
- 研究者としての方向性を再考し、迷いも感じていた頃だったので、多くの先生方から非常に多くの有難い助言・示唆を頂けたのが大きかった。
- 他学部・研究科の雰囲気の把握、他教員とのぞっくばらんの情報交換ができて良かった。
- 議論において分け隔なく、可能性を秘めた意義のある会だった。

長崎大学頭脳交流ミーティングの特徴④



参加者の研究内容、研究についての悩み、共同研究の呼びかけ、趣味や楽しかったことなどなど、提供してくれた情報をまとめた資料集を毎回作成。何回読んでもまた読みたくなる。**結構面白くて楽しい資料集。**

参加者アンケート回答抜粋

- 長崎大学の学部横断的、学際的な取組のために非常に良い機会。来年以降も続けてほしい。
- 通常の研究の枠組みでは行えない研究・調査・交流活動活発化へ期待
- 人数的にも、このぐらいの規模ではないと、みんな色々話すことができない。
- あのプレゼンのお陰か、非常に多くの先生方にお声掛けいただき、長崎大学の良さを再認識した。

長崎大学頭脳交流ミーティングのプログラムの一例



内容を固定せず、模索しながら常に進化させてきた。



ショートプレゼンテーション
(2min/人)で面白く



ポスター交流



研究紹介・実演



いつも大いに盛り上がる
学長・理事との会話時間



学内異分野連携研究
事例紹介



グループワークは
毎回異なるテーマ

メインテーマ



第1回 「地球温暖化への適応策」

(学長の出題)

工学、経済、水産、環境、
熱帯医学などなどあらゆる
アプローチと連携の可能性
について議論・発表



第2回 「科研費」

- ・**科研特設分野**に関する議論
- ・調書の相互ブラッシュアップ
- ・書き方レクチャ



第3回 「発想を楽しもう」

グループメンバーが異なる考え方・手段・理論解析などを連携すれば、どのような面白い研究ができるか、意外性がある大胆な研究提案がされた。「**瞠目に値する**」、「**興味深い**」、「**平凡である**」の3段階で審査され、最も高い得点の提案が学長から表彰された。



第4回 「若手WGとの交流」

- ・総合研究センター(仮称)設置構想
- ・教職員に向けたマネジメント力の組織的教育構想
- ・学術大会構想

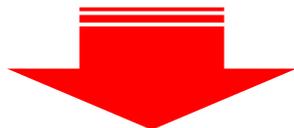


頭脳交流ミーティングの意義

頭脳交流ミーティングの意義とは？（参加者アンケート回答とURAの考えの一致した点）

- 異分野への好奇心、学際研究を創出する意欲の増進
- 異分野を理解するための柔軟な思考の形成
- 自分を磨く、自分の研究を磨く機会の獲得
- 部局間の研究者が壁なく議論する雰囲気醸成
- 研究に新しい展開の契機

9割以上の参加者が
継続希望



研究の活性化・新しいアイデアの誕生
学際研究の萌芽

一方、
常に目に見える成果について聞かれる。
「異分野連携研究が何件生まれたか？」



期待されるURAの役割

役に立ったURAのスキル

- 参加者の要望、考えの抽出・統合・プログラムへの反映
- 大学の研究を俯瞰的に見る力。あらゆる分野の研究を理解する力
- URAのファシリテーションスキル
質の高いブレイン・ストーミングを誘導することが重要になる場合もある。
- 日々の研究者とのコミュニケーション

期待されるURAの役割

- マッチング
- プロジェクト支援、外部資金獲得支援との連動
- 学内外の研究支援人材との連携

参加者アンケート回答抜粋

- 頭脳交流ミーティングの時は異分野交流が盛り上がるが、終了後により具体的なマッチングを進める仕組みがあった方がいい。地元企業の参加も呼び掛けて見たら？
- 個人的には、他教員と話をする機会と同時にURAの方と話をする時間が有用に感じた。
URAに是非研究の架け橋になって欲しい。
- イベントの最後は具体的に部局ごとの集団がどんな異分野交流の糸口をつかみ、それを組織として進めたいかを発表する方が、その場限りの異分野研究課題の提案より有意義だと考える。

「頭脳交流カフェ」構想

○ 特定のキーワード、分野、テーマに特化

(例えば、ある分野について、該分野からの期待、異分野側の期待、大学の方針、国家の要請について語り合う。)

○ 年に複数開催

○ 参加者を学内研究者から、学生・学外へ拡大

「n大学頭脳交流ミーティング」

まずは、2～3大学から。

参加者アンケート回答抜粋

- 「文理融合」や「異分野交流」は目的ではなく方法だ。したがって、何らかの「課題」があって、そこに少しでも関しそうな分野の研究者が一堂に会して、というスタンスが良いと思う。
- 何かのプロジェクトの立ち上げから、解決策の検討、政策立案という流れの中に文系と理系の研究者を位置付けるような形で一緒に考えられれば面白そうだ。
- 参加者の分野が違いすぎるので、ポスターセッションがあまり機能していない。ショートプレゼン2分に質疑を3分程度入れた方が効果的かもしれない。
- もう少し狭い学問領域での交流の方が、共同研究は生まれやすいと思う。
- 年2回開催し、その内の一つは文系特化型を試験的に開催するのは如何？文理融合型の方が望ましいが、文系をどうあるべきかを考える、また、文系同士の連携も生まれるかもしれない。

その他参加者からの要望: 異分野研究室訪問、学内のみ検索可能なデータベース、などなど

出島に寄せし 新潮に
文化の窓を ひらきたる



ご清聴
ありがとうございました！

